



湿布薬・塗り薬による重い副作用、 光線過敏症について知っておこう！

光線過敏症とは

ケトプロフェン（成分）を含む湿布薬・塗り薬 + 紫外線 → 光線過敏症

ケトプロフェンの湿布薬や塗り薬を「使用中」または「使用を中止してから4週間以内」の部分（皮膚）に紫外線が長時間当たると、光線過敏症（赤く腫れる、水ぶくれなどのひどいかぶれ）を起こすことがあります。（写真1）

（写真2）の注意書きには「（1）戸外に出るときは…」とありますが、紫外線の一部はガラスを透過するため、ガラス越しでも光線過敏症を起こすことがあります。戸内や車内においても窓際の方は注意が必要です。

（写真1）

服で覆われ紫外線が当たらなかった部分

紫外線が長時間当たり、赤く腫れた部分

モーラス®テープ20mg 貼付部位

（久光製薬 HP 安全性情報（一部改変））

回避方法

光線過敏症は、薬を使った部分（皮膚）を濃い色の服や、サポーターで覆って紫外線が当たらないようにすれば回避可能です。

（写真2）の注意書きを守り、戸外、戸内や車内を問わず紫外線が当たらないようにしましょう。

（写真2）ケトプロフェンを含む湿布薬（モーラス®）の裏面（注意書きの写真）



安全にお使いいただくため、処方された患者さん以外にはお使いにならないでください。この薬を他の人に譲ってはいけません。



貼付部を紫外線にあてると光線過敏症をおこすことがあります。
（1）戸外に出るときは天候にかかわらず、濃い色の衣服、サポーター等を着用し貼付部を紫外線にあてないでください。
（2）はがした後、少なくとも4週間は同様に注意してください。

中高生にも

モーラス®（写真3）とはケトプロフェンが主成分の医療用湿布薬です。光線過敏症の副作用があっても「効果」「使用感」が良いため、医療用湿布薬の中で処方数がNo.1。打撲や捻挫などに対し、中高生にもよく処方されるため注意しましょう。

（写真3）モーラス®の表面（一部分の写真）



⚠️ 「ケトプロフェン」以外にも「ジクロフェナク」など、他の成分でも光線過敏症を起こすことがあります。包装に書いてある注意事項や薬剤師等から受けた注意を守って使用してください。

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《 出張相談会 保健室に学校薬剤師が来ます 》
ドラッグレターの内容、医薬品や健康、薬物乱用などについて、相談・聞きたいことがある人は保健室まで！
2月16日(水) 12時35分～13時10分

作成・発行元 北陸大学薬学部
准教授 大柳賀津夫(学校薬剤師)
准教授 岡本晃典(薬剤師)
5年生 南平沙和香

